

『外部対応』

1 1 社会との連携

基準 1 1 - 1

医療機関・薬局等との連携の下，医療及び薬学の発展に貢献するよう努めていること。

【観点 1 1 - 1 - 1】地域の薬剤師会，病院薬剤師会，医師会などの関係団体及び行政機関との連携を図り，医療や薬剤師等に関する課題を明確にし，薬学教育の発展に向けた提言・行動に努めていること。

【観点 1 1 - 1 - 2】医療界や産業界との共同研究の推進に努めていること。

【観点 1 1 - 1 - 3】医療情報ネットワークへ積極的に参加し，協力していることが望ましい。

[現状]

平成22年から始まる長期実務実習に関して、受入れ側の病院や薬局では、11週間の実習をどのように実施すればよいのかという不安があった。エクステンションセンターでは薬剤師業務を行いながら、薬学生の教育にどのように関わっていけばよいのかという課題に取り組むべく、平成18年から兵庫県病院薬剤師会や薬剤師会などと協力し、『薬剤師実践塾』リーダー研修を実施してきた。この研修では、実務実習のカリキュラム作成と指導法について、年2回のペースで検討している。毎回多くの薬剤師の参画を得て、SGD形式でコアカリキュラムの内容を精査し、薬局業務を遂行していく中でどのようにすればコアカリキュラムに沿った実習指導ができるかを議論し、ワークシート形式のものを作成した。また評価法についても検討を行い、多くの成果をあげてきた。平成21年からは病院薬剤師のための実務実習のカリキュラム作成と指導法の検討も実施するようになった。【観点 1 1 - 1 - 1】

平成8年に神戸薬科大学共同研究規程が整備され、医療界、産業界や国内外の大学などの研究者と共同研究しやすい環境となった。また、これらの共同研究成果を広く公表するため、2年ごとに『共同研究 研究紀要』として出版している。【観点 1 1 - 1 - 2】

薬剤師への医薬情報提供を目的とした、兵庫県薬剤師会・薬事情報ネットワーク『飛翔』の立ち上げに本学教員も協力してきている。また、UMIN オンライン学会情報サービスを利用して、兵庫県病院薬剤師会と兵庫県下3薬科大学との連携のもと、専門薬剤師育成プログラムを実施し、より専門性の高い病棟業務、薬物治療の適正化、患者ケアの向上に寄与してきている。【観点 1 1 - 1 - 3】

(資料：共同研究 研究紀要)

[点検・評価]

優れた点

- ・『薬剤師実践塾』リーダー研修を行い、実務実習のカリキュラム作成と指導法の検討が行われている。
- ・共同研究がしやすい環境が整備されている。

- ・ 薬剤師に対するネットワークを利用した医薬情報提供に積極的に参画してきている。

改善を要する点

- ・ リーダー研修会などで作成された評価表やワークシートを今後検証する必要がある。
- ・ ネットワーク上の医薬情報の更新が少なくなっている。

[改善計画]

リーダー研修で作成されたツールであるワークシートや評価表を実際にも実習で用いて検討し、評価、修正を加えていくことが必要である。

在学生、卒業生、薬剤師が学習・研修ツールとして利用できる e-Learning システムを年次計画で整備していく必要がある。

基準 11-2

薬剤師の卒後研修や生涯教育などの資質向上のための取組に努めていること。

【観点 11-2-1】地域の薬剤師会、病院薬剤師会などの関係団体との連携・協力を図り、薬剤師の資質向上を図るための教育プログラムの開発・提供及び実施のための環境整備に努めていること。

[現状]

本学は、平成19年6月20日付で、『有限責任中間法人薬剤師認定制度認証機構』から西日本の薬系大学では初めて生涯研修プロバイダーとして認証（G07）を取得した。本制度は、あらゆる職域で活躍する薬剤師に向けて豊富な生涯研修の場と情報を提供し、受講者による生涯研修の円滑で効率的な推進を図るとともに、研修成果に基づいて本学が独自に研修認定薬剤師証を交付することにより、薬剤師としての専門的資質の更なる向上を継続的に支援するものである。これに伴って、学内にエクステンションセンターが創設され、活動基盤の一層の強化と更なる発展が大いに期待されている。

なお、現在当センターが行っている事業には以下のものがある。

卒後研修講座

全国屈指の伝統、実績と規模を誇り、最新の医学・薬学情報を総合的かつ体系的に修得できるように編成した、学術的色彩の濃いユニークな研修講座である。

講師陣は全国的視野に立って選定され、斯界の第一線で活躍されている研究者や臨床家による専門的講義は受講者から毎回極めて好評で、高い評価を得ている。

リカレントセミナー

本講座は、前述の『卒後研修講座』より、もっと深く学びたいという方々の声に応えて開講された。『卒後研修講座』のアドバンストコースと位置づけられ、より専門的で高度な領域を扱う講座である。

薬剤師実践塾

離職後一定期間を経て再就職を目指している薬剤師や初任薬剤師を対象とした、実践的かつ少人数の参加型セミナーを目指している。研修指導者には、神戸薬科大学教員及び各職域で活躍し、指導的立場にある病院薬剤師、薬局薬剤師が参加し、調剤、鑑査、服薬指導、薬歴管理、リスクマネジメントといった薬剤師業務に役立つ実践的な内容で、密度の濃い実習、ディスカッション、発表などを行っている。

他方、長期実務実習指導者としての中堅薬剤師を対象としたアドバンストコースと位置づけられる研修も開講した。テーマは6年制薬学教育における実務実習カリキュラム作成と指導法の検討であり、その内容は、『薬学教育モデル・コアカリキュラム』における教育目標に基づいて学生にいかに関率的に指導するかということを追及するものである。なお、これらの成果は出版化される予定である。

シンポジウム

時機を得たホットなテーマを取り上げ、斯界の先駆的、指導的立場におられる専門家を招き、

今後の薬剤師業務の方向性やあるべき姿について多角的に議論するシンポジウムには、多数の参加者を得、多大な成果を収めている。特に平成21年度のバイタルサインをテーマにしたシンポジウムは全国的にも前例がなかったため、各メディアでも大きく取り上げられるなど、本センターは生涯研修提供機関（プロバイダー）として重要な責務を果たすことができた。

また、生活習慣病予防に係る特定健康診査・特定保健指導制度が始まり、国民の健康への関心がますます高まっていることを鑑み、平成21年度、本学では健康食品指導薬剤師制度を発足させ、167名の健康食品指導薬剤師証を交付した。【観点 11-2-1】

[点検・評価]

優れた点

- ・ 本学の薬剤師生涯研修支援事業は質、量、歴史ともに全国でトップクラスであり、ニーズに合わせた企画を展開し、受講者からの満足度は高く、毎回参加する受講者も多いことは評価できる。
- ・ 地域の職能団体との連携は、講師の紹介、派遣、講座の共催、広報と実に緊密に連絡を取り合い、円滑に進められている。

改善を要する点

- ・ e-Learning システムの構築が遅れており、早急に対応する必要がある。

[改善計画]

現在、地域職能団体との連携ということで平成22年度に開講を予定している『基礎分野強化プログラム』を e-Learning コンテンツとして提供できるよう検討する。

基準 11-3

地域社会の保健衛生の保持・向上を目指し、地域社会との交流を活発に行う体制の整備に努めていること。

【観点 11-3-1】地域住民に対する公開講座を定期的を開催するよう努めていること。

【観点 11-3-2】地域における保健衛生の保持・向上につながる支援活動などを積極的に行っていることが望ましい。

【観点 11-3-3】災害時における支援活動体制が整備されていることが望ましい。

[現状]

本学では、平成12年度から毎年市民を対象とした公開市民講座を学内で開講している。毎回、市民の健康増進に役立つものや、日常生活に関心を多く持たれている今日的なテーマを選定し、薬に関する知識の普及と啓蒙を通して、“開かれた大学”をいっそう推進し、地域社会への貢献を目指している。また、当日は参加者全員に本学エクステンションセンターと神戸市東灘区薬剤師会との共同編集による『健康ガイドブック』を進呈し、好評を博している。

市民生活にも役立つ企画として午前中には次のとおり盛り沢山のイベントを開催、午後は専門家によるわかりやすい講演を行っている。

- ・神戸市東灘区薬剤師会による『おくすり・健康相談』
- ・ホリスティックケア総合学院による『ハンドマッサージ』
- ・健康測定（身長、体重、血圧、骨密度、血管年齢、握力）
- ・神戸市消防局東灘署による『AEDの使い方講座』
- ・本学生薬部学生による『おいしいハーブティの煎れ方』実演
- ・本学薬用植物園見学

そして、新聞折込みチラシの配布や東灘区民広報誌『東灘コミコミ』への記事掲載、市内主要箇所でのチラシ設置、過去の参加者へダイレクトメール送付、ホームページなど、本講座の広報活動も積極的に展開している。

本学は神戸市東灘区と『地域連携協力に関する協定』を平成18年に締結している。その一環として、①神戸薬科大学の実習室において『夏休み子どもいろいろ体験スクール』を開催（毎年夏休みの1日）、②学生スタッフによる『東灘大学ジャーナル』の編集発行（年2回）を行っている。特に『夏休み子どもいろいろ体験スクール』では、小学校4年生から中学校3年生まで20名を対象に、薬系大学ならではの化学実験や薬剤師の仕事の経験をさせている。その中で、十分な手洗いを体験させるなど、保健衛生についての指導も行っている。【観点 11-3-1】【観点 11-3-2】

一方、本学は災害時における避難場所として神戸市に登録されており、神戸市が毎年発行する神戸市防災特別号並びにコミュニティー安全マップなどに災害時の避難場所として記載されている。そして、神戸市から交付された避難所プレートを正門横に掲げ、いつでも避難者の受入れができる体制をとっている。平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災は、家屋の倒壊、鉄筋コンクリートの建物の倒壊は言うに及ばず、阪神高速道路までもが倒壊するに至った未曾有の大災害

であった。大学の所在地である神戸市東灘区は、阪神高速道路が倒壊した同じ区内にあり、この地震による被害の大きかった場所で、鉄道機関が不通、道路は隆起及び陥没のための大渋滞、また教職員の住居も少なからず被害を受け、大学に来ることも適わない状況下であった。しかし、避難者の受入に当たっては常駐している守衛が、取り決めに従い、避難者を体育館の和室に順次受入れた。和室は3部屋あり、最大で総計100名を受入れ、同年3月末に最後の方が退去されるまで避難所としての役割を果たした。学内には、通称『ベンゼン池』があり、この池は防火用貯水池として緊急時の防火用水としても利用されるが、阪神・淡路大震災時の火事の際にも、消火作業に利用された。

また本学は神戸市消防局と『放射性物質に関する特殊災害発生時の覚書』を締結し、放射線災害発生時の対応への助言や、放射線測定器の提供、放射性物質の分析などの協力を行うこととしている。さらに、本学職員が神戸市消防学校に出講し、特殊災害に対応するための、高度な専門知識及び活動技術を習得するための教育訓練を行っている。【観点 11-3-3】

(資料：神戸市消防局との連携に関するパンフレット、健康ガイドブック)

[点検・評価]

優れた点

- ・毎年市民を対象とした公開市民講座を学内で開講し、市民の健康増進に役立つものや、日常生活に関心を多く持たれている今日的なテーマを選定し、薬に関する知識の普及と啓蒙を通して、開かれた大学として、地域社会への貢献を目指している。
- ・公開市民講座参加者全員に本学エクステンションセンターと神戸市東灘区薬剤師会との共同編集による『健康ガイドブック』を進呈し、好評を博している。
- ・災害時における地域との係りについては、本学が避難所となっていることは周知されており、その受入れについて門戸を開放し、いつでも避難所としての役割を発揮していることは、大学のもつ公共的性格からしても十分に評価できる。

改善を要する点

- ・特になし。

[改善計画]

特になし。

基準 11-4

国際社会における保健衛生の保持・向上の重要性を視野に入れた国際交流に努めていること。

【観点 11-4-1】 英文によるホームページなどを開設し、世界への情報の発信と収集が積極的に行われるよう努めていること。

【観点 11-4-2】 大学間協定などの措置を積極的に講じ、国際交流の活性化のための活動が行われていることが望ましい。

【観点 11-4-3】 留学生の受入や教職員・学生の海外研修等を行う体制が整備されていることが望ましい。

[現状]

本学においても国際化の重要性は十分に認識されている。併せて現代における情報発信、収集におけるホームページの有効性についても十分に認識されているが、英文ホームページによる情報発信に関してはいまだその端緒にもつけていない現状である。【観点 11-4-1】

実務レベルにおいては、HUMAP（兵庫地域の大学とアジア・太平洋地域大学間の交流枠組みに関する協定）に積極的に加盟し、機会があれば広くアジア・太平洋地域の大学と交流を図る態勢を整えてきている。すなわち、チェンマイ大学（タイ）、ラジャヒ大学（バングラディシュ）との大学間交流協定を締結しており、交流協定に基づいた共同研究、博士課程学生の交換留学生受入れ、本学教授派遣による特別講演などを実施してきている。また、留学生の受入れにおいては、留学生規程を整備し、積極的な私費留学生の受入れを実施してきたが、更なる国際化に対応するため、最近では国費留学生の獲得も視野に入れ、大使館推薦並びに大学推薦による国費留学生の受入れなどを模索しているところである。そのような中で、今年度は博士課程に外国政府派遣留学生を1名受入れた。その他、大学の国際化を図る施策として、外国人ポスト・ドクター（PD）を積極的に登用しており、ここ数年は年平均5名前後のPDが在籍する状況となっている。現在も4名の外国人PDが在籍しており、在学生にとっては国際化を体感できる貴重な機会となっている。【観点 11-4-2】 【観点 11-4-3】

[点検・評価]

優れた点

- ・ HUMAP への参加並びに他大学との交流協定締結は評価できる。
- ・ 留学生規程を整備しており、留学生の受入れの体制を整えている。
- ・ 今年度、ホーチミン大学から博士課程にベトナム政府派遣留学生を受入れたことは、国際化として評価できる。
- ・ 教職員の海外研修並びに国際学会への参加などを支援する制度が確立されている。

改善を要する点

- ・ 英文によるホームページを開設しておらず、海外へ情報発信ができていない点は改善の必要がある。

- ・ 本学学生の海外研修についてはほとんど実績がない。

[改善計画]

国際交流の基本方針を立て、本学研究室と共同研究を実施しているアジア各地の中核大学と単位互換を含めた積極的な交流を図り、交流協定を締結して学生・教員の更なる交流を図れるよう検討していきたい。